

新しい連載が始まりました。「人間はなぜ老いるのか」、「健康寿命を維持し、元気に生活したい」・・・こんな疑問や要望に帯刀先生が答えてくださいます。

シリーズ 人はなぜ老いるか？

東北大学名誉教授
帯刀 益夫

第1回

「不老不死」は人々の夢か

ずっと昔から「不老不死」は人々の夢でした。

たとえば、日本のいたるところで「徐福伝説」があり、新宮市の徐福公園には徐福の立像があります。徐福は中国の秦の始皇帝時代の人です。

始皇帝（紀元前259～210）は権力をほしいままにした皇帝といえますが、「不老不死」の願望も強く持っていました。徐福は始皇帝に、「東方の三神山に長生不老（不老不死）の霊薬がある」と具申します。

これを真に受けた始皇帝の命により、彼は3千人の若い

男女と多くの技術者を従え、五穀の種を持って東方に船出したと、司馬遷の『史記』に記されているということです。

結局、彼らは中国に戻らず、始皇帝は49歳で死んでしまい、中国では、徐福は皇帝をだました悪人とされているようです。

彼らがどこに旅立ったかを考えると、中国の東方に位置する国は日本であり、徐福たちが日本に上陸したという日本伝説はそれらしい気がします。

「不死人間」の話

話が跳んで、「ガリバー旅行

記」には「不死人間」の話が出てきます。

ほとんどの人が小さい頃、ガリバーが小人の島に上陸した話などを読んだ経験があり、童話だと思っている人も多いでしょう。

しかし、これはれっきとした大人のための寓話としてスイフトが書いたもので、1726年に出版され、当時の英国でベストセラーになります。

「不死人間」の話は、第3巻「ラピュタ、バルニバルビ、ルグナツグ、グルブドゥブドゥリブと日本への航海」に出てきます。

大きな島国であるラグナグ王国に着いたガリバーはストラルドブラグと呼ばれる「不死人間」の噂を聞き、是非会ってみたいと頼みます。

それは、自分のこれまでの知識、特に古い歴史について、「不死人間」と話すことができないと考えたからです。また、自分がストラルドブラグであつたならとも願うのですが、実

際に会ってみて大きな失望に変わります。

ストラルドブラグは醜い老人であり、すでに記憶も定かでなく、きちんとした会話もできない老化した状態であるだけでなく、生活上の援助は国から十分に受けていて心配はないのに、やけに意地汚い性格だつたりするので、不死であっても不老でなければ意味がないと認識したのです。

ガリバーはラグナグ王国からすぐ近くの日本に渡り、キリスト教徒であるにもかかわらず旅行が許されて、江戸に連れてゆかれて將軍にも面会して、長崎まで送ってもらつて帰国するという話になっています。

「健康寿命」が目標

この二つの話から、日本はずっと昔から長寿国だと見られていたようです。

実際、現在の日本は世界で一番の長寿国ですし、長野県は日本一、松川村、池田町は男性の長寿命では長野県でトップの位置にあります。しかし、ストラルドブラグとは逆に、

「不死」は求めず「不老」つまり、「健康寿命」を維持できることが、現代のわれわれの夢といえるでしょう。

これからのシリーズでは、特に生物学的な研究からヒトの老化はなぜ起きるかについて説明し、さらにその医学的な対応としての再生医学研究、ノーベル賞を受賞した山中博士のIPS細胞や、最近話題になっているSTAP細胞についても触れたいと思います。

帯刀益夫先生の略歴

・1943年 池田町広津に生まれる

・松本深志高校、東京大学薬学部、大学院薬学研究科を修了後、エール大学、カリフォルニア大学サンフランシスコ校に留学、

・癌研究所、東京大学薬学部助教授、東北大学加齢医学研究所教授、同所長、科学技術振興機構 プログラムオフィサーなどを歴任
現在は東北大学名誉教授
陶芸、科学書の執筆
近著「遺伝子と文化選択」

部内資料

発行責任者 太田 勲 (62-5727)
議員連絡先 うすい孝彦 (62-5093)
服部 久子 (62-4357)

150号
2014年4月

日本共産党
池田ファンクラブ・ニュース
あした天気にな〜れ

矛盾だらけの消費税増税 8%強行実施で大きな影響が

自民・公明・民主党が「社会保障のため」として消費税増税を決め、安倍内閣はこの4月から強行実施しました。消費税は3%上げれば8兆円を上回る大増税となりま

す。
今年の春闘で僅かばかりの賃上げがあつたとしても、サラリーマンの年収は10数年間下がりっぱなしで、およそ70万円も減少しています。8%の増税で一世帯当たり年10万円もの負担増との調査もあり、家計が立ち行かなくなり

ます。
さらに、来年10月から10%に増税しようとしています。

「社会保障のため」はウソ

「増税分はすべて社会保障に」と宣伝していますが、政府でさえ社会保障に回すのは一割程度と認めています。社会保障の実態は、年金の連続削減、介護保険の大改悪、高齢者医療の窓口負担引き上

げ、生活保護の削減などかつてない負担増が強いられます。

一方大企業には復興特別法人税の廃止、投資減税・交際費減税、来年4月より法人税をさらに減税する大盤振る舞いです。

また、デフレ脱却の景気対策、「国土強靱化」の巨大公共事業、「東京五輪」、5年間に25兆円の軍事費を注込む方針など、消費税10%全額使つても不足する計画です。

フランスや英国は

フランスは付加価値税が20%と高いですが、医療や教育などに無料に近く、食品等生活必需品に軽減税率があり、「文化を大切にする」考えで観劇・入場料など低率になっています。英国も20%ですが、食料品や子供の衣料品などは課税されません。また「知識に課税しない」と、新聞・書籍・雑誌は無税です。このように欧州各国は高税率ですが、福祉を手厚くし、日本のように「広く重く」貧富の別な

く徴収する国はありません。

価格表示で

消費者は大混乱

増税に伴い、税抜き価格表示も認められたため、スーパーやホームセンターは、店によって税込み価格、本体価格のみ、税込みを小さく二段表示、税表示なしとバラバラで広告宣伝しています。

価格が高い自動車や家電製品は税別が多いようです。

3月に120円だつた大福モチが130円、600円（5%税込）のラーメンが8%上乗せで650円になりました。小さなことだけど変ですね。

パンドラの箱

消費税は1989年4月竹下政権の時3%が導入され、8年後橋本政権で5%に増税されました。国民は竹下首相を糾弾し、橋本首相も参院選で惨敗させ退陣に追い込みました。

時の政権にとって消費税はパンドラの箱でもあることを、安倍首相に思い知らせましよう。

コラム 有明

リサイクルについて考える機会があつた。今は物があふれ、日々新しい商品が出回るため不要なものが必ず

出てくる。処分するときには「もったいない、物を大事にしないと」と複雑な気持ちになるものだ。▼不要食器リサイクル視察研修は、「百聞は一見にしかず」を実感することになった。有志の方々が、3年前から取り組み始め、昨年「不要食器リサイクル委員会」を立ち上げたのだ。回収を実施するまでの経過を聞くと、すごいエネルギーに頭が下がる。▼多治見のリサイクル陶土製造会社などを視察し、現場は想像以上に苦勞されていることを実感した。陶器の粉碎（1ミリ以下の顆粒状）↓土に再生（陶器の土20%を配合する基の土は、すべて輸入）↓成形・焼成となる。▼リサイクル陶器はやや重く形もシンプルで、主に学校給食やエコショップなどで利用されるに留まっている。この活動は環境に配慮したライフスタイルや、資源循環を考えるネットワークづくりだということもわかつた。▼製造コストは赤字でもあり大量には回収できないとのことだ。リサイクルを前向きに考え、今年も多勢のボランティアの方々と楽しく頑張りたいと思う。